

【千歳市】 校務DX計画

1. 1人1台端末（指導者用）の整備

令和7年1月時点で、指導者用の1人1台端末の整備は完了していないものの、令和7年度以降の児童生徒用の1人1台端末の更新時に、更新対象となる端末を指導者用として転用することで、指導者用の1人1台端末の整備を完了する予定。

2. 校務系・学習系のネットワーク統合

千歳市では校務系・学習系のネットワークを分離している。今後の校務DXの推進に当たり、ネットワークの統合を行い、業務効率化を図ることが必要と考えられるため、必要なセキュリティ対策を施すことを前提として、ネットワーク統合について検討を行う。

3. 校務のデジタル化

FAXでのやり取りや書類の押印については、帳票の電子化やクラウドサービスの活用を推進することにより、原則廃止に向けて検討を進める。

職員会議等を実施する際には、会議資料等をクラウド上に保存し、職員間で共有することで、クラウド環境を活用した校務DX及びペーパーレス化を推進する。

児童生徒の出欠状況等の校務支援システムへの入力作業を削減するため、校務支援システムと連携可能なサービスの導入について検討を行う。

4. 次世代の校務支援システムの導入に向けた検討

千歳市では校務支援システム「C4th」を、市のイントラネットを通じて接続する仕組みで利用しているが、校務支援システムはクラウドベースの校務環境に適合したものへと入れ替わっていくことが想定されるため、導入に向けた情報収集及び検討を行う。